

個別教育計画の取り組みから主体的・協働的な学びを育む授業づくりへ

岡本有未 小田達夫 角田真紀子 齋藤大地 佐藤弘康

清水麻由 中村理美 仲野宏樹 蓮香美園

伊藤友彦 澤隆史（東京学芸大学）

I 序及び目的

1. 昨年度の研究の成果と課題

昨年度は、タブレット端末を活用した「くらし」の授業実践を通し、生徒達の主体的・協働的な学びを育む支援について検討した。

中学部では、「家庭生活に必要な調理、被服、住まいなどに関する基本的な知識と技能を身につけるとともに、地域で生活するために基本的な知識（健康・安全・性、金銭など）を知り、進んで家庭や地域での生活に参加できるようになる」ことを目的として「くらし」の授業が設定されている。「くらし」の授業の大きな特徴は、知識・技能を獲得するとともに、“生徒が主体的に生活に参加すること”を重視している点である。つまり、生徒の生活の場としての家庭と学校が連携し合い、生徒が主体者として自らの生活を創っていくための学びを保障することが重要となる。

この取り組みの中で、中学部段階で大切にしたい学びとして、自ら学ぶこと、他者と共に学ぶことを設定した。生徒はこうした学びを積み重ねることにより、健全な自己肯定感が育まれ、自己理解、他者理解が深まりを見せるという仮説の下、授業実践を行った。約1年間の実践の中で確実に生徒たちの学びの質は変化し、その変化は日常生活における彼らの意識や態度にまで及んだ。生徒は他者との間に存在する様々な違いを学びの資源として受け入れることで、他者に対する理解を深め、他者を通して見る自己に対する理解についても同時に深めていくことができた。その過程で生徒たちは学級内に存在する多様性を自然と受け入れることができるようになり、

「くらし」の授業外の場面でも、お互いに認め合い肯定的な言葉を交わし合う姿が多く見られるようになった。

さらに、「主体的・協働的な学び」という観点から、生徒一人ひとりが『どのように学ぶか』について検討を重ねるにつれ、教員の役割について考え直すことになった。すなわち、授業づくりにおいて生徒が学習で得た知識を基に考える機会や、他者と課題を共有し課題解決のために協働する機会を設定した際、教員の役割および教員が準備すべき手立てにはどのようなものがあるかということであった。

2. 「個別教育計画」と中学部段階で一人ひとりが『どのように学ぶか』

本校の個別教育計画は、それぞれの地域生活のための総合的な計画と、学校と家庭を中心とした教育支援の計画の2層になっており、前者を「総合支援シート」、後者を「教育支援シート」

と呼び分けている。ここでは「個別教育計画」の教育支援シートで取り上げている内容から、一人ひとりが『どのように学ぶか』に着目した。

「個別教育計画」の教育支援シート（以下、教育支援シート）は、どの子どもにも共通に必要とされる指導内容だけでなく、とくに個別に必要とされるものに注意が払われ作成する。これらの個別のニーズは、それぞれの現在の生活様式や将来の生活設計によって変わるものなので、作成される具体的な指導計画は、当然一人ひとり異なるものになる。作成にあたっての本人および保護者の参画については、子どもの個別のニーズは、できるだけその本人からの希望を聞いて、それを尊重していく。しかし、まだその聞き取りが難しいかまたは不十分な場合には、保護者がそれを代弁することになっている。保護者は子どもの代弁者であると共に、家庭や地域におけるよき支援者としての役割も担う。ここ数年の中学部では、中3になると本人が立案評価の会議（面談）に参画するケースが多い。

この背景としては、

- ① 教育支援シートに取り上げられる指導内容に対して、生徒本人が主体的に取り組む経験を重ねることが、それぞれの生徒に求められること。
- ② その経験を経て、自分の課題と向き合いながら自己理解が進むこと。
- ③ さらに中1・2での主体的な学びの中で生徒一人ひとりが自尊感情やレジリエンスを高め、立案評価に参画できると教員も保護者も感じている。
- ④ 中3の課題「高等部進学」について生徒自身が主体的に向き合って選択できるように、また、学年集団として他者と共に学ぶ機会となるように、教員も保護者も願っていること。

が挙げられる。

このような中学部段階の教育支援シートにおける実践の積み重ねから、『どのように学ぶか』が記載されている【主な指導場面】と【支援内容・方法】について検討し、より良い教育支援シートを目指す。さらに、授業づくりに活かし子どもたちの主体的・協働的な学びを育む支援につなげていけると考えた。

3. 主体的・協働的な学びを育む授業づくりと「総合学習」

本校の教育課程では、自立した生活に必要な基礎的、基本的な学力(内容知・方法知)を身につけるための支援をめざした「学習支援」を以下の2つに大別して整理している。『教科学習』と『方法学習』である。

『教科学習』は子どもの発達や経験に即した基礎的・基本的な知識や技能の系統的な学習、そして『方法学習』は主体的に生きるために、自分をよりよく理解し、自らものごとを解決したり意志決定したりする学習と整理し、中学部及び高等部の総合学習は、後者の『方法学習』を授業として展開するものとしてきた。中学部の総合学習は、1・2年の「東京探検」、3年の「関西」、全学年で行う「学習発表会」がある。これらの学習で扱う内容について、本校紀要47号(2002)では次のように例示している。

- 主体的な在り方、生き方
 - ・自己選択、決定 ・自己調整
- ものの考え方、調べ方
 - ・問題の解決方法 ・計画の立て方 ・観察の仕方 ・情報の求め方 ・話し合いの仕方
 - ・相談の仕方 ・まとめ方
- 自分への関心や理解の仕方
 - ・自己概念・自己理解・自己意識・セルフエスティーム など

従って、総合学習についてこれまでの実践を振り返りながら、授業づくりを行うことは主体的・協働的な学びを育む授業づくりを検討することへもつながる。更に、「個別教育計画」に記される『どのように学ぶか』を活かすことで授業づくりと、授業改善の視点を導いていけると考えた。

4. 目的および方法

前述のことを踏まえ、以下の手続きで、中学部段階における、個別教育計画の取り組みから主体的・協働的な学びを育む授業づくり及び授業改善の視点を考察する。

- 1) 学部全体の個別教育計画（教育支援シート）から、学年毎の短期目標、指導内容および指導場面の傾向と全容について検討し、主体的・協働的な学びを育むための視点を整理する。
- 2) 主体的・協働的な学びにつながる視点を踏まえ、総合学習における実践記録(学びの記録表)を行いながら授業づくりを検討する。

Ⅱ 結果と考察

1. 平成28年度中学部 個別教育計画（教育支援シート）の概要と考察

図1は、本年度前期の教育支援シートにおける主な指導場面の集計してあり、縦軸はのべ人数、横軸は指導場面を表している。家庭と学校が連携して教育支援シートの作成から評価までに関わるシステムであることを反映し、目標の多くの指導場面が学校における指導場面(図1の1～10)とあわせ家庭も指導場面に設定されている。目標達成に向け、家庭と学校が連携して指導場面を用意しているのは全学年で共通している。

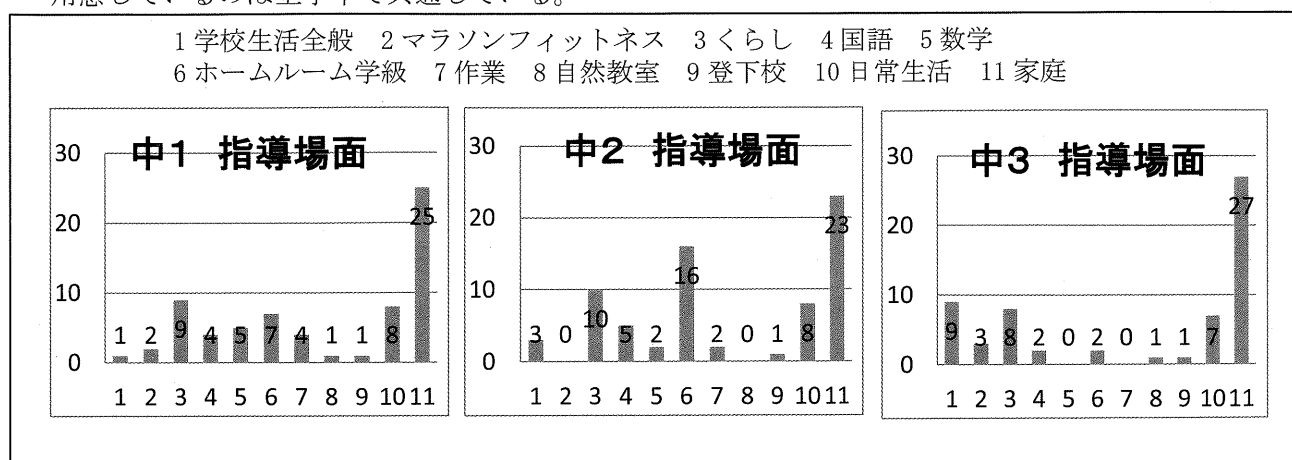


図1 平成28年度前期個別教育計画(教育支援シート)主な指導場面

次に支援内容・方法について注目する。当然のことながら、個別教育計画で取り上げている目標は一人ひとり違っている。しかし、ほとんどの生徒の個別教育計画において、支援方法で「取り組んだ成果を保護者、教員、学級の仲間からしっかりと認められる」経験を大切に積み重ねている。

中学部段階の個別教育計画では、生徒自身がより主体的に自分の重点課題に向き合えるように目標を設定し、支援内容・方法・指導場面を計画してきた。前述の支援方法は、一人ひとりの自己肯定感を高め、お互いを認め合う姿を育み、学びに向かう力へとつなげられると考えた。

2. 総合学習「東京探検」(中1・2) および総合学習「関西」(中3)の授業実践

1・2年と3年生では指導計画の違いから学習期間は異なっているものの、9月～10月下旬に中学部では、総合学習を行う。

1・2年の東京探検は選んだテーマで縦割りの小グループに分かれて調べ学習を行った。1・2年生の段階では「自分のテーマを選ぶ」ことについても主体的な姿に差が大きく、本人の「好きなこと」「やってみたいこと」からの興味があると観察できても、その興味・関心をテーマとして選ぶのには表1のように段階的な支援が必要だった。

表1 総合学習「東京探検」(中1・2) および総合学習「関西」(中3)におけるテーマ探し(選び)の実態と支援

	中1生徒	中2生徒	中3生徒
例示がなくても、自分のテーマを探して決め、選んだ理由を表現する。	1人	1人	0人
多くの例示の中から自分のテーマを探して決め、選んだ理由を表現する。	2人	2人	3人
3～5程度の例示の中から自分のテーマを選び、選んだ理由を表現する。	0人	1人	2人
3～5程度の例示の中から自分のテーマを選ぶ。	2人	0人	0人
3～5程度の例示の中から自分のテーマを支援されて選ぶ。	1人	0人	0人
2～3つの例示の中から自分のテーマを支援されて選ぶ。	1人	3人	2人

一方で3年生の学習では、多くの例示の中からのテーマ探しを行い、選んだ理由を表現し、なにより自信を持って選ぶ姿が多く見られていた。1・2年と3年とは題材が異なるため比較が難しい面は否めないが、学習の積み重ねに基づく「学びに向かう力」の高まりもあると考えた。

また、この2つの総合学習は、共通して、調べる方法の一つとして「現地で調べる」を取り入れていた。実際に現地で経験し、調べる活動は、どの生徒も期待感が高く、ポスターにまとめる際に共通の経験をベースとして生徒同士が協働的に活動する姿につながっていた。

「発表する」機会は、学部全体で計画し、保護者にも参加してもらい行った。上級生がのびのびと自信をもって発表している様子が見られ、学習経験の積み重ねの差が学年により明らかに見られた。

3. 個別教育計画における支援内容・方法と総合学習「東京探検」・「関西」より検討した主体的・協働的な学びを育むための視点

生徒一人ひとりがより主体的に自分のテーマを探し（選び）、活発に協働する姿を引き出せる授業を目指し、12月から始まる総合学習「学習発表会」の授業づくりに向け、改善の視点として次のことを導き出した。

○テーマ探し（選び）の学習場面において、主体的な姿をより引き出せるよう工夫すること。その上で、一人ひとりの主体的な姿を丁寧に受け止める。他者（生徒、教員）から認められる経験を丁寧に確保する。自分のテーマが他者からしっかり認められることで、「テーマについて調べる」「ポスターにまとめる」「発表する」学習活動への主体的な学びへとつなげる。

○「自分のテーマについて調べる」学習活動において校外学習で調べる場面を用意し、小グループに分かれて調べるようにする。校外学習は生徒が同じ経験を通し、お互いのテーマへの理解を深める助けにする。また、協働する姿のベースにする。

○生徒同士の学び合いが活発になるための環境になるよう、各学年がいる縦割り小グループで「自分のテーマについて調べる」「ポスターにまとめる」「発表する」までを学習する。上級生の自信をもって学習に臨む姿がモデルとなるように教員は支援し、実践事例を整理し、次の支援の改善につなげる。

4. 総合学習「学習発表会」（全学年）の授業づくり

1) 「ぶらり山手線の旅」題材設定への経緯

生徒の興味・関心のあることは電車、アニメ、ファッション、スポーツ、動物と幅があり、興味・関心の度合いについても「好き」「夢中になっている」「あれもこれも関心がある」「自分なりの枠でピンポイントに関心がある」等、差が大きい。生徒たちの様子は、同年代の中学生が関心をもつ様子と同様のベクトルを感じられるものの、仲間同士でさらに興味が高まったり、もっと知りたいことに迫る姿は弱い。そこで学習発表会では、生徒が自分の興味・関心のあるテーマをより主体的にみつけ、選び、情報を集め、活発に交流しながら学習を進めていけるよう意図して本題材「ぶらり山手線の旅」を設定した。山手線沿いの特徴的な3駅、「上野」「秋葉原」「原宿」を調べる活動を通して、一人ひとりの興味・関心へとアプローチする。その際、「3. 個別教育計画における支援内容・方法と総合学習「東京探検」・「関西」より」で整理した視点を踏まえ、図2のように、指導計画へ活かすことにした。まず自分が調べたいカテゴリーを選び、カテゴリー毎に縦割りの小グループ「上野グループ」「秋葉原グループ」「原宿グループ」を作って活動し、自分のテーマを決めるという流れを取り入れた。共通の興味・関心をもつ仲間と、主体的・協働的に取り組めるよう3学年を縦割りの小グループにして学習できるように進めることとした。

更に、調べる学習では、本やインターネットで調べるだけではなく、校外学習を設定した。実際に見たり、聞いたり、体験したりすることで理解が深まり、イメージも広がる。仲間とイメージの共有ができることは、協働する上でも有効に働くと考えた。以上のことを経て自分の興味・関心、分かったこと、感じたことを友だちと共有し、一緒に発表（表現）する方法を考え（選び）、大勢の前で自信をもって舞台発表

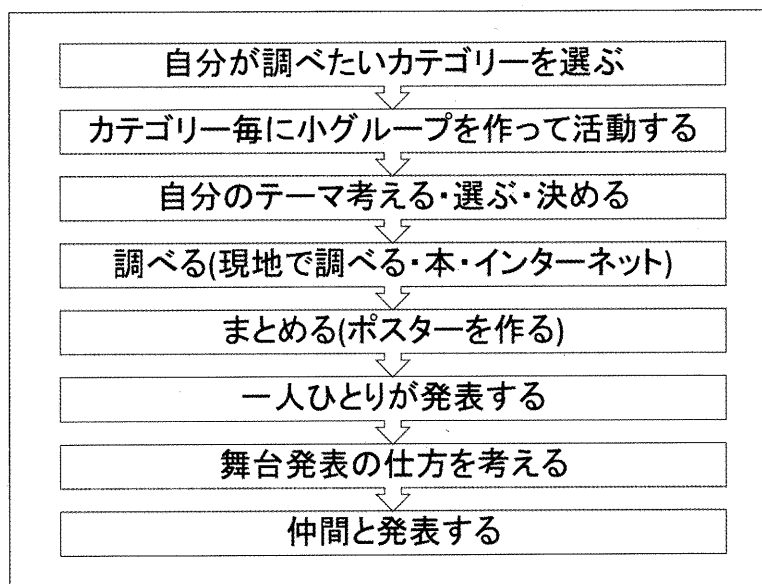


図2 総合学習「学習発表会」での主な学習の流れ

できるようにつなげる題材として本題材を設定した。

2) 自分のテーマを探す・選ぶ活動

生徒がテーマを探す・選ぶ学習においては、全体導入で、3つの駅の動画や写真を紹介したのち、生徒それぞれが自分のやってみたいテーマのカテゴリーをワークシートで選んだ。図3で示すように、駅名を選択するのではなく、9つのカテゴリーから自分のやってみたいものを3つ選び、それに基づいて、そのことが調べられる駅ごとに縦割りで分かれることにした。

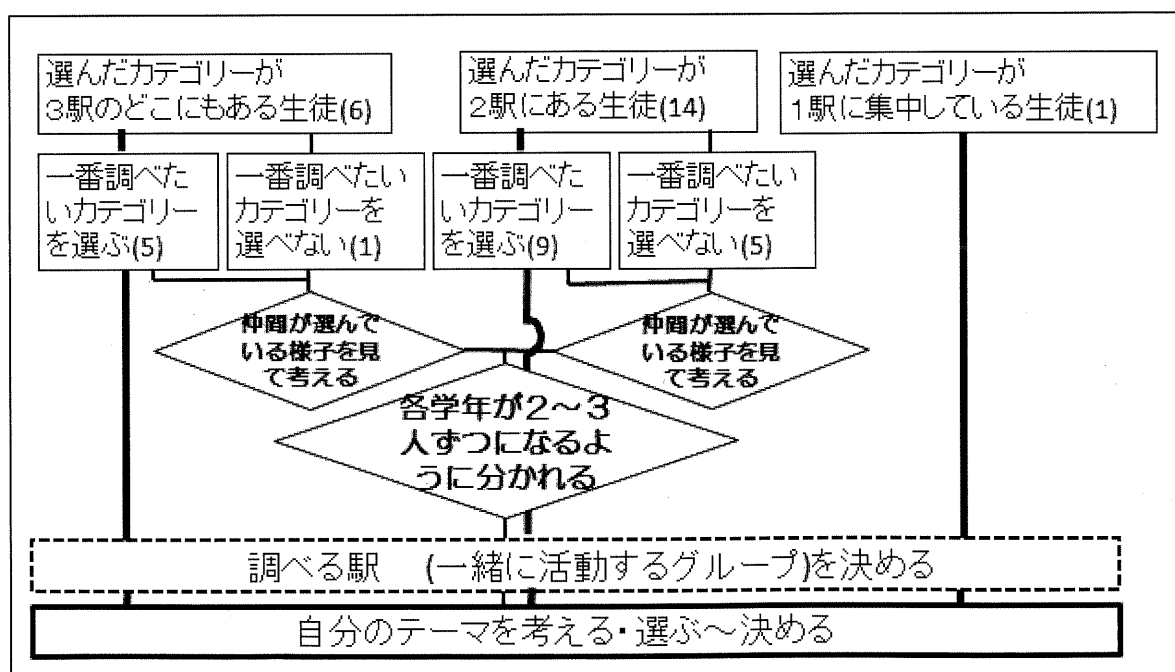


図3 総合学習「学習発表会」テーマ決定までの生徒の様子

縦割りグループを編成するに際しては生徒に「どのグループにも各学年の人が2～3人いるこ

と」をルールとした。どの駅にも興味のあることが存在する生徒から一駅に自分の関心が詰まっている生徒までいる中で、グループ編成が進んだ。

この流れにおいて、中学生らしい一コマが何度も見られた。自分の興味・関心より好きな異性と同じグループになって活動したいという生徒たちの駆け引きの姿であった。Aは好きな異性を選んだカテゴリーを聞いて、ワークシートを修正してグループ編成に臨み、見事に同じグループになった。Bはワークシートを修正しなかったことで、何度も好きな異性と同じグループに移動することを試みたがかなわなかった。さらに、Cは好きな異性が「やってみたい」と意見を出すたびに、自分のやりたい事は二の次にして「いいね～」「きっと〇〇さんは似合うね」等繰り返し発言した。それぞれの興味・関心、何人かの生徒にとっては好きな異性のことは何にもまさる興味・関心という姿だった。

主体的な学びへの動機となるものはカテゴリーやテーマそのものに対するものだけでなく、仲間と一緒に学びたいという姿、好意を抱いている異性の関心に自分も関心を向ける姿がある。この姿を受け止めながら学習を深めていけるよう進めることも主体的・協働的な学びを育む授業へとつなげていける要素と考えた。

好きな異性と同じグループになって活動が始まったAは、テーマを探し、選ぶのに苦労した。もともとやってみたいと考えていたカテゴリーではなかったことの結果と考えられた。しかし、好きな異性へいいところを見せたい一心で、学習へ主体的に向かって行った。

一方で好きな異性と同じグループになれなかったBもテーマを探し、選ぶのに苦労した。好きな異性と同じグループになれず、学習への意欲が下がっている様子が見られた。しかしながら、気の合う友人が同じグループで学習し、徐々に意欲が高まって学習に臨んでいた。

この学習でのテーマ探し(選び)の実態は表2のようになった。例示がなくても、自分のテーマを探して決め、選んだ理由を表現した生徒が、各学年で増え、全体の3分の1以上いた。また、例示の中から自分のテーマを選んで、選んだ理由を表現した生徒を加えると全体の3分の2を占める生徒がこの中にカウントできた。自分のテーマを主体的に考え、探し、選ぶという意味では、前節で触れたよう、生徒の実態把握に基づき題材設定につなげた経緯が有効だったと考えられた。

表2 総合学習「学習発表会」におけるテーマ探し(選び)の実態と支援

	中1生徒	中2生徒	中3生徒
例示がなくても、自分のテーマを探して決め、選んだ理由を表現する。	3人	3人	2人
多くの例示の中から自分のテーマを探して決め、選んだ理由を表現する。	1人	0人	4人
3～5程度の例示の中から自分のテーマを選び、選んだ理由を表現する。	1人	0人	0人
3～5程度の例示の中から自分のテーマを選ぶ。	0人	2人	0人
3～5程度の例示の中から自分のテーマを支援されて選ぶ。	0人	1人	0人
2～3つの例示の中から自分のテーマを支援されて選ぶ。	2人	1人	1人

3) 「学びの記録表」における事例検討から授業づくりへ

9月～10月の総合学習において、各学年2～3名ずつの生徒を対象に「学びの記録表」を用いて、一人ひとりの学びの質深まりに寄与する支援方法について検討した。その中で、事例Dにおいて確かめられた支援方法（下線部分）について、研究授業（資料1を参照）における指導の手立てとして取り上げ授業づくりへとつなげることとした。

【事例D「学びの記録表」より抜粋】

【前期個別教育計画より】

短期目標／必要な連絡事項を相手に伝える。
主な指導場面／朝のHR、帰りのHR、日常生活、家庭
支援内容・方法／朝渡される担任からのメモをたよりに、自分なりに言葉を考えてHRで発表し、メモ以外の事柄についても本人が考えて伝えたいことがあれば発表できるように促した。家庭との連携については母へメールで一定の連絡をすることにした。

最初は担任からのメモに頼っていたが、徐々に自分で言葉を考えたり調べたりしたことを積極的に学級で発表するようになった。また、家庭で学校の様子を伝えることが増え、本人から母へのメールもほぼ毎日できた。（9月末）

【総合学習「関西」の学習の経緯から】（10月末）

自分が興味・関心のあるテーマを選択すること。テーマについて調べるために、どのような方法で調べればいいのか理解すること。調べ、計画したことを実現し、仲間に認められる嬉しさを経験することをねらいとした。個別教育計画の支援内容から、本人の学習の成果等を、学級の全員で共有する時間を持ち、本人のモチベーションへつなげていくことを支援のポイントとした。

初めてのことが苦手な生徒であったが、関西では「関西弁」について映画村や宿舎でスタッフに「インタビューしていいですか」と自分から提案して声をかけていた。緊張しながらもインタビューできた。総合学習発表会では、友だちにアドバイスする姿も見られた。緊張はしていたが、吹っ切れた様子で発表を楽しんでいた。

【他の学習場面でのレジリエンス変化】（11月）

作業学習では苦手意識のあることに対し、挑戦してみようという気持ちが持てるようになった。また、うまくいかなかったり、間違えた時の報告がスムーズになってきた。そこで少し難しい課題に取り組みながら、「やり直し」をする経験を少しずつ入れた。対応する力が増したと思われた。

【総合学習 学習発表会「ぶらり山手線の旅～原宿編～」調べ学習】（12月）

校外学習において、自分の知りたいことを積極的にインタビューしていた。

4) 校外学習と調べる活動

校外学習で調べる活動では、自分のテーマに関わる場所へグループの仲間と出かけることで他の仲間の選んだテーマの共有はもとより、一緒に出掛けることで、仲間とのイメージの共有や、興味・関心の拡がりにつながっていった生徒もいた。校外学習で触れたことをさらにインターネットで調べて確かめる姿も多く見られた。

知的障害のある子どもたちの学習において「具体的な体験」の有効性はよく知られている。調べたことをまとめる活動で見られた得た情報を確かめたりさらに求める姿は、生徒が主体的に学び深めていく姿と捉えられると考えた。さらにそれを発表する活動、他の人に伝える経験へと発展する中での自己肯定感の高まりも観察できた。

5) 学習発表会の舞台発表につなげていく学習～研究授業～

調べたことを3つの縦割りグループそれぞれに発表会をしたのち、グループ単位で舞台発表の仕方を検討して発表会に向かった。

その中で、原宿グループの学習活動を研究授業の対象として検討した。(資料1 指導案を参照) ここでの授業づくりの主なポイントとして以下のことを授業者は整理した。

○同じグループ内でも、色々な物に興味の幅のある生徒がいる。自分の興味を活かせる題材にする。

○授業の始めに「トレイントレイン」を歌う。学習発表へ向けての意識づけのために歌っている側面と学習発表会発のような行事や授業が苦手な子どもに対して、楽しいイメージや見通しに繋がるようにと考えていた。

○生徒に応じた役割を設定し、学習活動を推進する「リーダー」には、授業前に活動内容について打ち合わせていた。自分から明日は何をするか聞きに来たり、どちらが良いかを言葉で示すのが難しい子どもがいるのをわかっていて、教員にイラストや写真を用意するように依頼する姿も見られた。友だちのことをよく理解した上で、主体的に参加する姿が引き出せていた。

○視覚的に見通しがもちやすいように、全体予定を黒板に貼り、加えて本グループ内の小グループごとにも予定を示した。

○生徒が発表の方法を決める際、多数決で決めようという提案があった。説得したり、折衷案が意見として出ると予想したが出なかったため、結論を次時に見送った。生徒が一つのことを主体的に決めていく大切な場面と捉え、じっくりと考える環境を用意すべきと考えた。

○小グループ内で協働的姿を促す場面も設定した。バスケットチームでは物を介して。ファッションチームでは分担してコーディネートすることを通して、自分が選んだものが人に認められる経験ができるように。スイーツチームではiPadを使って、意図の共有を目指した活動を用意した。

この研究授業における総括として、以下のことが本学の共同研究者から話題になった。

『自分ができることを周りの関係の中で自分を認めていくことが必要になってくる。自分で選ぶ、決めることは大事。小さいころからの積み上げが大事なので、選択決定の機会を与えていく。他の人との葛藤や意見の違い、ぶつかり合いも出てくる。自分の選択決定が相容れない場面もある。今回の授業でもそういう場面があった。人と違うことをうまく認めて協働にもっていく。仲間同士の関係性、人間関係が大事。それぞれの生徒が主役になれるような人間関係ができていたり、場面の設定、課題教材、タブレットの活用など、先生方のマネジメント、色々な要素が共同学習には絡んでくるんだなと思った。主体性協働性の要素がたくさんあると感じた授業であった。山手線の中のしかもディープな駅で、選択肢がたくさんあった。いくつかの選択肢があって、そこからさらにさまざまな選択肢を出せるのは大事な事。生徒と一緒に活動する場面があった。子どもの視線や見方、関わり方、さりげないうなずき、表情の違い、行動のタイミングを計るよう

なところなど、リズム感がだんだん出てくる。一般的には話し合いや言語活動だと言われているが、行動やしぐさに協働性が現れるので、いろんな授業にできる。』

『主体的協働的にあまり引っ張られすぎないこと。大事なことだが、学ぶということは、常に主体的協働的である。教師として何をすべきかの答えは、子どもが自分の力でちょうど、または、ちょっとむずかしい、でもできる課題を設定するのがよい。』

6) 学習発表会での舞台発表へ

舞台発表では、3つのグループがそれぞれ自分のグループの仲間が選んだテーマを共有し、舞台を展開した。各グループで舞台発表が初めての1年生を3年生がリードした。伝えたい内容を毎回アレンジしながらアドリブで表現した生徒、校外学習で見てきたものを忠実に台詞にして表現した生徒、自分でじっくり考えた表現の仕方では発表していた生徒など、一人一人が主体的に舞台に立つ姿が多く見られた。これについては事後の保護者アンケートにもこうした姿についての感想が多く寄せられていた。(資料2)「平成28年度 中学部年度末アンケート『学習発表会』参照)これらのアンケート結果は今回の授業づくりにおける保護者の視点での評価として捉えた。

Ⅲ まとめと今後の課題

中学部段階の個別教育計画では、生徒自身がより主体的に自分の重点課題に向き合えるように目標を設定し、支援内容・方法・指導場面を計画してきた。個別教育計画の支援方法で「取り組んだ成果を保護者、教員、学級の仲間からしっかりと認められる」経験を大切に積み重ねていることは、一人ひとりの自己肯定感を高め、お互いを認め合う姿を育み、主体的・協働的な学びにつながったと考えた。

さらに、9～10月の総合学習の実践記録の検討から授業改善の視点を整理し、12月からの総合学習の授業づくりへと繋げ、総合学習において主体的・協働的な学びを育むために必要な指導計画作成上の視点を中心に整理し、実践した。今後、この視点の妥当性について実践的に検討しながら、さらに授業改善へと繋げていきたい。

(文責：蓮香)

引用・参考文献

東京学芸大学附属特別支援学校 (2002) 研究紀要 第47号

東京学芸大学附属特別支援学校 (2015) 研究紀要 第60号

資料 1

中学部 学習支援

総合学習「学習発表会」学習指導案

日 時：平成29年1月27日（金）10：00～10：50

対 象：中学部1年3名、2年2名、3年3名

（男子2名、女子6名）

場 所：中学部1年教室

指導者：清水麻由（MT）、岡本有未（ST1）、齋藤大地（ST2）

1. 題材名「ぶらり山手線の旅～原宿編～」

2. 題材設定の理由

学習発表会は、生徒達がこれまで学習してきた成果を発表する全校行事である。中学部では、学習発表会を総合学習として設定し、自分の興味・関心のあるテーマを選び、調べる方法を学習すること、友達と話し合い、協力して製作、練習すること、舞台上で堂々と発表することをねらいとしている。みんなで作り上げたことに達成感を感じ、多くの人にその姿を認めてもらうことで自己肯定感が高まることを願っている。

中学部の生徒の実態は、発達水準や意思表出の手段、対人関係の課題など様々であり、興味があることの対象も鉄道、アイドル、ファッション、動物、アニメ、スポーツなど幅広い。また、10月に行った総合学習「東京探検（品川駅・水族館）（1、2年）」「関西（3年）」では、自分で疑問に思ったことをテーマに決められる生徒、2～3の例示の中から自分のテーマを選択できる生徒、なかなか自分のテーマを選べない生徒などがおり、総合学習に対する課題も様々である。話し合い活動の実態としては、学級活動で自分達で話し合って決める機会を多く積んできた3年生の中には自分の意見を伝えるだけでなく、友達の意見を引き出したり、それを受けて自分の意見を考え直したりする力がついてきた生徒もいる。しかし、自分の意見を伝えたり、友達の意見を聞いたりすることに課題がある生徒も多い。

本題材「ぶらり山手線の旅」は、様々なことに興味・関心のある生徒達に応じて、それぞれがテーマを選択し、主体的に活動に取り組めるように設定した題材である。山手線内の「原宿駅、上野駅、秋葉原駅」はそれぞれに特色がある駅である。原宿は、「ファッション、スイーツ、バスケットボール（代々木体育館）」、上野は「博物館、動物園、アメヤ横丁」、秋葉原は「アイドル、アニメ、電化製品」というようにカテゴリーを提示し、生徒の興味から3駅のグループに分かれることとした。グループ分けの際は、主体的に選択することを課題とする一方で、人数が偏った時に意見を調整して折り合いをつけ、協働的にグループを編成することも課題とした。山手線の駅は10月の総合学習等で全員が利用したことがあるが、頻繁に利用する生徒は少なく、それぞれの駅へのイメージもまだ弱い。ため、「行ってみたい」「もっと知りたい」と思える場所である。本やインターネットで調べるだけでなく、実際に見て、聞いて、体験することでより意欲をもって調べることができ、発表へのイメージが湧くと考え、12月には校外学習として現地に行き学習した。一人ひとりが調べたことをポスターにまとめ、グループで発表を行っている。

本グループの対象生徒は、中学部1年生3名、2年生2名、3年生3名であり、原宿に関連するテーマを選んだ生徒達である。自分の興味のある対象をテーマとして積極的に選べたグループである。3年生がグループのリーダーになって学習を進めていく。授業では、さらにカテゴリーごとに2～3人のチームに分かれ、自分の役割を意識できるようにしたい。また、話し合い活動や友達へのインタビューを通して、自分の意見だけでなく、友達の意見を聞くことで一緒に発表を作り上げていってほしい。見通しがもてないと不安になる生徒もいるため、毎回授業のはじめにテーマソングを歌い、舞台発表の仕方を考える活動の流れが同じになるようにした。授業の終わりには、それぞれのチームがその日の成果を発表し、お互いの良いところを認め合えるようにしたい。

3. 目標

- 自分の興味のあるテーマを選び、調べる。
- 友達と協力して、舞台上での表現方法を考えたり、道具を製作したりする。
- 練習した成果をたくさんの人の前で友達と一緒に発表する。

4. 指導計画

1) 指導計画 (全55時間+2日)

	時間数	学習内容
導入	1 h	学習発表会について知ろう
展開	2 h	自分が調べるテーマを決めよう
	7 h+1 日	自分のテーマを調べて、ポスターにまとめよう (校外学習を含む)
	4 h	舞台発表の仕方を考え、準備しよう・・・本時 (4/4 h)
	4 0 h	舞台発表の準備、練習をしよう
まとめ	1 日+1 h	学習発表会本番・振り返りをしよう

5. 本時の学習

1) 本時の目標

- 舞台発表の仕方について自分の考えをもち (選択し)、発表する (意思表示する)。
- 舞台発表に向けた話し合いで友達の意見を聞き、協力して準備に取り組む。

2) 原宿グループのチーム編成

原宿グループ	バスケットチーム	ファッションチーム	スイーツチーム
生徒 (8名)	A、B、C	D、E、F	G、H
教員 (3名)	MT	ST 1	ST 2

3) 個人目標

【個人目標☆・手だて○ (個別教育計画に関連した目標★・手だて●)】

生徒	実態	個人目標	指導の手だて	関連する個別教育計画
バスケットチーム	A 3年女子 ・学級の中では、自分の意見を言葉で伝えることができているが、他学年の友達に意見を発表する経験は少ない。 ・学級で話し合いの司会をする経験があり、学級の友達の意見を聞こうとする姿が見られる。	☆他学年の友達に自分の意見を自信をもって伝える。 ★話し合いで、司会を行い、みんなの意見をまとめようとする。	○全体活動ではワークシート、チーム活動ではイラストカードを用意し、発表しやすいようにしておく。 ●授業の前に活動内容を伝え、話し合う方法を確認しておく。	必要な連絡事項を相手に伝える。
	B 1年女子 ・学級の話し合いでは、手を挙げて意見を言えるが、他学年の友達の前だと発表をためらう。 ・自分の考えたことをすぐに実行したいため、話を最後まで聞かずに行動することが時々ある。	★全体活動の話し合いで自分の意見を丁寧な言葉で発表する。 ☆話し合いの中で、友達の意見を最後まで聞く。	●自分の意見を書いたワークシートを元に発表するように促す。 ○話し合いの時の約束を視覚的に提示しておく。	授業中や質問をする時には、丁寧な言葉使いができる。
	C 1年女子 ・選択肢の内容が分かると好きな方を選択できる。友達に尋ねられることが意思表示の意欲につながる。 ・友達に誘われると一緒に活動できることが多いが、自分から友達に関わりに行くことは少ない。	☆やりたいダンスを選んだり、やりたいバスケットボールの技を選んだりする。 ☆友達の誘いかけに応じたり、自分から友達の所へ行ったりして一緒に活動する。	○選択できるように分かりやすい選択肢のカードを用意しておく。 ○友達にボールをパスするなど分かりやすい活動を設定する。	

ファッションチーム	D 3 年 女 子	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を発表できるが、言語表現が不十分なため、相手に自分の思いが伝わらないことが多い。 ・自分の主張がはっきりしているので、自分と友達の意見が違った時に折り合いをつけることが課題である。 	<p>☆全体活動で、好きなダンスを選択し、理由を挙げて発表する。</p> <p>☆チーム活動で、友達の考えの良いところを見つける。</p>	<p>○ワークシートに理由を記入する欄を作り、それを元に発表できるようにする。</p> <p>○チームでそれぞれが考えた衣装を発表した後に、良い点を発表する時間を設け、発表できたら賞賛する。</p>	
	E 2 年 女 子	<ul style="list-style-type: none"> ・選択することに時間がかかることがある。自分の気持ちを教員に話す中で、考えがまとまっていく様子が見られる。 ・友達の話を最後まで聞かずに話しはじめてしまうことがある。 	<p>☆全体活動で、好きなダンスを選択し、選択した理由を発表する。</p> <p>★話し合いの中で、友達の意見を最後まで聞く。</p>	<p>○選択できない場合には、教員が気持ちを聞いて考えがまとまるように支援する。</p> <p>●話し合いの約束を思い出すように約束カードを指さすなど間接的な支援を行う。</p>	他の人の会話が終わるのを待ってから話す。
	F 2 年 女 子	<ul style="list-style-type: none"> ・学級での発表場面では、積極性を見せているが、異学年のグループでは気後れすることがある。 ・友達の意見を「いいね」と言って認めることができるが、その上で自分の意見を決めるのには時間がかかることがある。 	<p>☆全体活動で、自分の意見を自信をもって発表する。</p> <p>☆チーム活動で、友達の意見を聞いた上で自分が一番いいと思うものを友達に伝える。</p>	<p>○自分の意見を書いたワークシートを元に発表するように促す。</p> <p>○自分の意見を決められない時は、教員が気持ちを聞いて考えがまとまるように支援する。</p>	
スイーツチーム	G 3 年 男 子	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを VOCA アプリや言葉で伝えられるが、自分が選択したことに自信がもてず、自分からの表出が少ない。 ・自分から友達に働きかけることは少ないが、自分の役割が分かり、見通しがもてる活動であれば、友達と協働的に活動できる。 	<p>☆全体活動で、自分が選んだものをみんなに伝える。</p> <p>☆チーム活動で、友達を意識して一緒に製作活動に取り組む。</p>	<p>○自分の意見を書いたワークシートを元に発表するように促す。</p> <p>○役割を交替したり、振り返りを友達と一緒にしたりすることで友達を意識できるようにする。</p>	
	H 1 年 男 子	<ul style="list-style-type: none"> ・好きなことを選択することができる。自分の考えを単語や2語文で伝えられる。 ・製作活動は好きだが、友達と一緒に一つのものを作る機会は少ない。 	<p>☆全体活動で、ワークシートを見ながら、自分が選んだものを理由を挙げて発表する。</p> <p>☆チーム活動で、友達の動きを見て、製作活動に取り組む。</p>	<p>○ワークシートの中で選択した理由をイラストと文字から選べるようにしておく。</p> <p>○製作活動の流れを一定にして、友達の動きに注目しやすいようにする。</p>	

4) 準備物

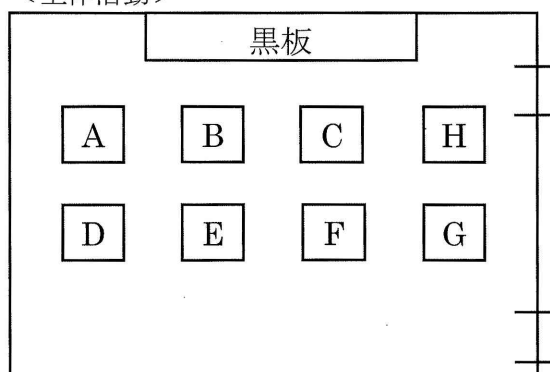
学習提示カード、ダンスの写真カード、話し合いの約束カード、ワークシート、テレビモニター、PC、バスケットチームの準備物（技の写真カード、ワークシート）、ファッションチームの準備物（衣装、トルソー、ワークシート）、スイーツチームの準備物（作り方の設計図、製作活動の材料・用具、ブルーシート）

5) 展開

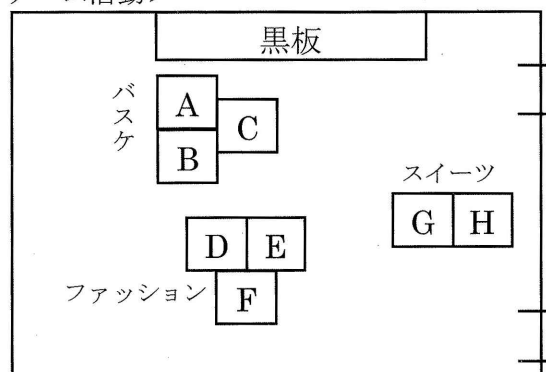
時間	学習活動	指導内容	留意点
5	○挨拶をし、グループリーダーが本時の活動を知る。 ○テーマソング「TRAIN TRAIN」を歌う。	○授業の始まりを意識し、本時の学習内容がわかる。 ○学習発表会へ向けての気持ちを高める。	○グループリーダーが号令、活動内容の伝達を行う。学習カードで授業の流れを示す。 ○歌詞をモニターに映す。
18	<全体活動> ○グループ全員で行うダンスを2パターンから話し合って決める。	○自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いて考え直したりする。	○司会はグループリーダーが行う。 ○2パターンとも実際に踊ってみて、撮った動画を見て考えるようにする。 ○ワークシートに書くことで自分の意見を発表できるようにする。
20	<チーム活動> ○チームに分かれて、発表内容を考える。 【バスケットチーム】 ・バスケットボールの演技でどの技を見せたいかを実際に試行して、話し合う。 【ファッションチーム】 ・友達が着る衣装を考えて、話し合う。 【スイーツチーム】 ・舞台に飾るスイーツを製作する。	・自分がどの技を見せたいかを伝えたり、友達の意見を聞いたりして決める。 ・他のチームの友達に合う衣装を考え、お互いに意見を出し合って決める。 ・相手の動きを見て、協力して製作活動を行う。	・MT：パス、ドリブル、シュートなどの技の写真カードを渡す。決まらない時は、それぞれの気持ちを聞いて、意見を整理する。 ・ST1：チーム内で衣装を考える部分（トップス、ボトムなど）を分担し、考えたものを組み合わせながら検討する。衣装の組み合わせが考えやすいようにトルソーを用意する。 ・ST2：自分達で製作活動を進められるように設計図を渡す。設計図通りにできているかを2人で振り返る場面を設定する。
7	○各チームで考えたことや作ったものを発表する。 ○次回の学習内容を知り、挨拶をする。	○本時の学習の成果を発表し、お互いの良い所を見つける。 ○次回の活動が分かり、授業の終わりを意識する。	○他のチームの良い所を見つけられた時には、賞賛して認める。 ○グループリーダーが号令をかける。

6) 配置図

<全体活動>



<チーム活動>



6) 評価

(1) 個人目標の評価

生徒	個人目標	評価	コメント
A	☆他学年の友達に自分の意見を自信をもって伝える。 ★話し合いで、司会を行い、みんなの意見をまとめようとする。	○ ○	みんなの意見を聞き出そうとしていた。
B	★全体活動の話し合いで自分の意見を丁寧な言葉で発表する。 ☆話し合いの中で、友達の意見を最後まで聞く。	○ △	双方向に話し合う場面が十分でなかった。
C	☆やりたいダンスを選んだり、やりたいバスケットボールの技を選んだりする。 ☆友達の誘いかけに応じたり、自分から友達の所へ行ったりして一緒に活動する。	○ ○	
D	☆全体活動で、好きなダンスを選択し、理由を挙げて発表する。 ☆チーム活動で、友達の考えの良いところを見つける。	○ ○	
E	☆全体活動で、好きなダンスを選択し、選択した理由を発表する。 ★話し合いの中で、友達の意見を最後まで聞く。	○ ○	
F	☆全体活動で、自分の意見を自信をもって発表する。 ☆チーム活動で、友達の意見を聞いた上で自分が一番いいと思うものを友達に伝える。	○ ○	
G	☆全体活動で、自分が選んだものをみんなに伝える。 ☆チーム活動で、友達を意識して一緒に製作活動に取り組む。	○ ○	
H	☆全体活動で、ワークシートを見ながら、自分が選んだものの理由を挙げて発表する。 ☆チーム活動で、友達の動きを見て、製作活動に取り組む。	○ ○	

(2) 授業の評価

項目	評価内容	評価	コメント
目標	1. 本時の目標は達成できたか。	○	
	2. 本時の目標は適切であったか。	○	
活動	3. 本時の目標にあった学習活動であったか。	△	グループの話し合いがもっと活発になると良かった。
手 だ て	4. 教材は適切であったか。	○	
	5. 教材の提示方法は適当であったか。	○	
	6. 教材の使い方は適切であったか。	○	
	7. 教示方法は適切であったか	△	本授業の活動と学習発表会本番のつながりを分かりやすく提示できると良かった。
	8. 生徒への援助方法は適切であったか	○	
	9. 集団の統制は適切であったか。	○	
	10. 生徒への反応の捉え方は適切であったか	○	
TT	11. 教員間の役割分担とその連携は適切であったか。	○	
学習 環境	12. 時間配分は適切であったか	○	
	13. 場面の設定は適切であったか	○	

(3) 個別教育計画運用の評価

生徒	個別教育計画からの目標	個人目標 達成度評価	場面の 適切性評価	手立ての 適切性評価	次時への 課題	個別教育計画 への課題
A	話し合いで、司会を行い、みんなの意見をまとめようとする。	○	○	○		
B	全体活動の話し合いで自分の意見を丁寧な言葉で発表する。	○	○	△	丁寧な言葉で相手に伝える。	
E	話し合いの中で、友達の意見を最後まで聞く。	○	○	△		

(4) 指導計画の評価

<p>題材名：「ぶらり山手線の旅～原宿編～」</p> <p>総時間数：55時間＋2日 授業日：1月27日（金）</p>		
指導形態に関して	指導内容に関して	時間数に関して
	学習発表会で発表することを話し合う前に、実際に校外学習で現地に行くことで原宿のイメージを共有することができ、生徒の意欲が高まった。	校外学習、ポスター作り、発表内容の検討、発表会の練習と長時間に渡る学習だったが、生徒の意見を取り入れる上では、ちょうど良い時間数だった。

資料2 「平成28年度 中学部年度末アンケート『学習発表会』（保護者21名中17名提出）

時間数	<input type="checkbox"/> 多い <u>0</u> <input type="checkbox"/> ちょうどよい <u>17</u> <input type="checkbox"/> 少ない <u>0</u> <input type="checkbox"/> その他 ()
内容	<p>良かった内容</p> <p>*一人一人が出来ることを発表できていて良かったと思います。</p> <p>*それぞれ得意なこと、できること、合っている役が割りふられていて、とても楽しめる内容でした。</p> <p>*個性に合った見せ場がそれぞれにあり、テーマも子供達にとって、身近なもので、分かりやすかっただろうと思いますし、全体的にもとても良かったです。何よりも、子供達が、皆、楽しそうに舞台に立つ姿を見ることが出来て、微笑ましかったです。</p> <p>*それぞれの場面でそれぞれの見せ場があって、とても良かったと思います。構成が素晴らしいと思いました。</p> <p>*子供達全員が主役になれるように考えて頂いたんだなあーと先生方に感謝です。同じグループの子供同志意気がぴったり合って、掛け合いも面白く観られました。</p> <p>*中学部と高等部のらしさがあってとても良かったです。個人個人が活かされていて…そこには先生方の子供たちへの想いが型になっていて、心から楽しませていただきました。ありがとうございました。</p> <p>*子供達の興味のある内容で良かった。</p> <p>*今回は子どもの興味や関心にあった内容で、子供たちのモチベーションが高いように感じました。</p> <p>*みんなが自分の興味のあることを詳しく調べただけあって、楽しそうに演じていたのが良かったと思います。</p> <p>*子供たちが楽しそうに演じていて良かったです。校外学習で調べてきた事がうまく劇に取り入れられていました。又、子供たちそれぞれの興味のある事や意見も取り入れられていて、とても良かったと思います。</p> <p>*テーマソング (Train Train) があったのが、全体をまとめていて良かったです。</p> <p>*まとまりがあり、上の先輩と一緒にできるのは良い事です。</p> <p>*上野・秋葉原・原宿をたて割りで発表していた所がすごく良かったです。生徒1人1人の良い所、特性を活かした役割分担、配役すごく良かったです。来年も期待しています！</p> <p>*グループで一緒に調べ学習をしたので、誰が何を見て聞いてきたのか仲間同士知っていることで、何に興味を持っているのかわかりながら作っていったこと。</p> <p>*各グループの特徴がでていて、よかったと思う。</p> <p>*テーマがはっきりとしていて、子供達の出番も多く、とても見ごたえがありました。事前</p>

	<p>に現地に行って調べてきたり、体験した事をもとに発表していたので、本人もわかりやすく意欲も高まったと思いました。</p> <p>やってほしい内容</p> <p>*来年度ではなく再来年度になりますが…平昌オリンピックがあるので色々調べてみては？と思いました。</p> <p>*子供たちの好きな物はバラバラでしょうが、好きな事だとみんなとても楽しそうだったので、今後も最大公約数的に大まかで良いので、子供たちの興味のある事が取り入れられると良いと思います。</p> <p>*準備段階の様子も映像か何かで見れたら、嬉しいです！</p> <p>*中学はやはり前年度、今年度同様、創作的な内容が良いな、と思いましたので、個人が出来ることを、1人1人に合った、少し努力するものがありながら、来年度も楽しみにしています。</p>
その他	<p>*もっと声をひろえるマイクがあるといいなと思います。技術的、金銭的に難しそうですね。</p> <p>*声が聞こえずらいところもあったので、セリフの多い子、旅人の子などは、マイクを使っても良かったのではと思いました。</p> <p>*衣装とまではいかないと思いますが、自分たちが身につける物を「くらし」の時間を使ったりして、作って当日身につけられたら意識もグッと上がるのかな？と思いました。</p> <p>*衣装の準備も負担が少なく済みました。(役柄によるものですが)。劇の内容、雰囲気に合わせて衣装を用意するのは大変だと思いますが、先生方の作ってくださった衣装がポイントになって良かったと思いました。</p> <p>*衣装の用意が少なくてすんで助かりました。貸していただいた衣装や小道具等、ありがとうございました。全員が落ち着いて楽しそうに発表していたのが印象的でした。背景の絵等も上手に仕上がっていて、とても良かったです。</p> <p>*かわいい衣装をありがとうございました。</p> <p>*素敵な衣装を作って下さりありがとうございました。本人のモチベーションUPになりました。3年生の出番を多く作って下さり7名の笑顔が印象的でした。</p> <p>*子どもたちの成長を感じました。</p> <p>*先生方は実踏など多く大変だったかと思いますが、その分成果になっていたと子どもから感じとることが出来ました。一年間の成長をみれました。よかったです。</p> <p>*全体の時間に関しては、ちょうどよいと感じましたが、もっと見たかった！と思える作品でした！来年も楽しみにしています！</p>